



実りの秋

激しかった夏が終り、朝夕と昼間の気温差が10度近くになる日が続き、咳・鼻水のかぜ症状から高熱を発したり、マイコプラズマ肺炎に患ってしまうお子さまもいて、体調管理には気が許せない時期を迎えています。全国的にはインフルエンザがじわりと流行のきざしを見せ、既に学級閉鎖をした学校もあると報道されています。

10月と言えば「実りの秋」

子どもたちが心身共に「実り」を実感できるように、これからも早期発見・早期治療と共に、必要な予防接種を時期をとらえて受けるなど、保護者の皆様にはご自分のお子を守るだけでなく、園で共に過ごす他のお子さまの健康維持にもご理解とご協力を賜わりたくよろしくお願い致します。

さて、毎年のごとながら10月1日から次年度の入園申込受付が始まります。この時期になると、私は毎年必ず思いおこしていることがあります。

松の実保育園だったある年、生まれながらの障がいを持つお子のお母様とおばあ様が相談に見えました。「入園できると、この子は先生方にご迷惑とご苦勞をおかけすると思います。」というのが第一声でした。

私は申しました。

「子どもはひとりひとりもれ無く、どの子も可愛がられ、守られ、育ててもらおう権利を持つて生まれて来てくれたのです。お子さまを育てておわかりのように、こどもの成長発達のカールはひとりひとり違っていきます。兄弟姉妹でも違います。園には4月生まれから翌年3月生まれまで360日近い開きのあることもたちが同じクラスに居ますから、成長発達の曲線がみな異なっているのがよくわかります。その中で、担任はこどもひとりひとりが自分は世界中で一番可愛がられ、大事にされていると思いい、何があっても正しく守ってくれる先生がいると信じてもらえるような保育をする。こどもたちの総てが自分の存在に誇りを持ち、人間として、集団の中で生きていく力の基礎を培うのが松の実保育園の使命だと思っています。もし、迷惑をかけるか苦勞をかけるかお思いでしたら、それがその子の成長発達の過程に必要な保育そのものではありませぬ。障がいがあるためではありませぬ。医療の域に関わることはできませんが、自分と異なる相手を思いやり、助け合える子ども、励まし合える子どもに育てていく日の保育が、人間社会で心豊かに自らが生き、人も生かせる本物の生きる力を培うことになるのだと信じています。」と。

こうして子どもたちは皆、1歩1歩着実に成長発達の道のりを歩き、赤ちゃんだったあの子どもたちがそろって、もも組になりさくら組になっていきます。

「松の実ファミリー運動会」では、ひよこ・たんぼぼ・うめ組さんの憧れと熱烈な応援を受けて、自信を持って、恒例のオリンピックを華々しく彩ってくれるもも組・さくら組の様子から「実り」の喜びを感じとっていただきたいと願っています。

運動会の次のお楽しみは、「お芋掘り」です。農作物も花木も毎日手抜き無く可愛がつて世話を続けなければ育たないので、あつ猛暑のさ中にも欠かさず水やり、草取り、つる返しとお世話を続けて下さつた中川農園のおじいちゃんから

「花には水、人には愛。」

という子育ての本質を今年も教えられています。

「実りの秋」が

ことさらに有難く、楽しみになる10月を迎えます。